

大学教育と職業との接続分科会  
—今後の分科会審議に関する問題提起—

## I 教育と職業とをめぐる従来の議論

- 従来の雇用関係を念頭に置いたキャリア教育論（職業観の育成～「社会人基礎力」）
- 主として大学院レベルでの高度専門人材の養成論（大学院重点化政策とポストク問題、専門職大学院、産学連携パートナーシップ、科学技術・イノベーション人材戦略 等）
- 「就活問題」に関する本格的な議論・対策の欠如（倫理問題への矮小化）



- 従来の雇用関係（日本的雇用システム）の大幅な縮減傾向を考慮し、労働生産性の向上につながる decent work の積極的な創出に向けて、教育・雇用・産業に係る政策及びセクターが連携して取り組むべきこと
  - ・現実には進展していない「高度専門能力活用型グループ」（「新時代の日本的経営」）を拡充していくための方策
  - ・ユニバーサル化した大学教育の下位を構成する層に対する手当
- 「就活問題」の構造的な問題を踏まえつつ、学生の視座を中心に据えた現実的な対策を講ずるべきこと

## II 分科会として具体的な提言を行うべき課題

### 1. 大学教育の職業的レリバンスの在り方

（主として中位層への対策として：「基幹労働者」の大半～相対的な自律性を持った専門職業人まで）

#### （1）大学教育の職業的レリバンスについての考え方の整理

- ・専門職業に直結する知識・理解
- ・汎用的に活用できるスキル
- ・「学び習慣」のような潜在的なスキル
- ・職業人としての倫理観や自律性、自他の権利を守る力

※学士課程教育と大学院教育、専門職大学院教育、企業内教育等との分担・連携の在り方

※多様な局面を考慮する必要性（分野の枠組み内での改善、分野の枠組み自体の組み替え、分野間の量的な調整）

※ボリュームゾーンとしての人文科学と社会科学とをどう考えるか

#### （2）企業の雇用システム・労働市場の在り方

日本的雇用システムの縮減を補完し、新たな decent work の創出につなげるために、職種別労働市場の漸進的な形成に向けて、教育・雇用・産業に係る政策及びセクターが連携して取り組むべきこと

## 2. 地域におけるキャリアラダーの再構築の必要性と、そこでの大学教育の役割 (特に下位層への対策として)

グローバル経済の下で進行する二極分化・窮乏化層の拡大傾向を、一定の経済的合理性と両立させつつ抑止していくべきこと

- ・単に現存するニーズに対応した職業能力形成ではなく、地域において新たな decent work が創出されるよう、教育・雇用・産業に係る政策及びセクターが連携して、下から上昇していけるキャリアラダーの積極的な構築を行う必要性
- ・そこにおいてユニバーサル化した大学が担う新たな役割（新しい「大学教育観」と、教育訓練機関の種類の壁を越えた連携の必要性）

※資格取得教育化に対する批判的検証

## 3. 就活問題への対応

### (1) 就活問題を論ずる視座の再検討

企業の倫理問題でも「大学の教育権」の侵害問題でもなく、学生の利益を視座の中心に据えてこの問題を再定義すべきこと

※きちんとした現状分析の重要性：特に学生の視点から見た問題点の同定

### (2) 当面の現実的な改善策の提案

就活が前に延びること（早期化すること）の抑制と、後に伸ばすこと（大学教育を終えた後も就活をできるようにすること）の推進

後に伸ばすことが前に延びることの抑制の前提となり、前に延びることの抑制が、成績の適切な評価を媒介とした大学教育と企業ニーズとのよりよい接続の前提となること

- ・企業の採用における「新卒」要件の明確な緩和
- ・就職できなかった場合に大学に籍を残せる制度
- ・就職できない若者の生活や職業能力開発を支援する制度

※その他の支援策（地方の学生の就活支援など）

※外資系企業の問題

### (3) 中長期的な観点からのマッチングの改善策の提案

諸外国に見られるような、採用に接続した長期に渡るインターンシップの導入